

## I 氏邸訪問記(2019.9.26)

### 1. はじめに

前回の訪問は [I 氏邸訪問記\(2019.5.10\)](#) で報告していますが、その後のシステム変更の確認ということで、O 氏、M 氏とともに訪問してきました。

### 2. I 氏邸のシステムの変更点

プリアンプのマッキントッシュ C32 が壊れたとのことで、修理を行うとともに新しく マッキントッシュ C-47 を購入されたとのことです。



### 3. I 氏邸のシステムの試聴経過



C-47

前半は、修理がなった C-34、後半は新規導入の C-47 でアナログと CD の試聴が進行しました。アナログは、Lux の PD-171A を使用し、カートリッジは Ortofon の SPU Gold A、トランスは Ortofon の T-1000 を使用されています。

C-34 の修理とオーバーホールの効果はてきめんで、C-34 のアナログ的な風合いを残しながら透明感も加わって、ソースの持ち味をうまく表現できています。途中、CD と C-34 を繋ぐ RCA ケーブルの交換もありましたが、こういった変更の効果も分かりやすくなっています。

後半は、新規導入の C-47 で試聴が進行しましたが、よりワイドレンジで高域の伸びや倍音が聴き取りやすくなっています。一方、ソースによっては、C-34 のウオームトーンが合っているのかなとも感じることもあります。持参した、ケンプのベートーベンのピアノソナタのアナログ盤と、アルテミス・カルテットのベートーベンの弦楽四重奏の CD をかけてもらいましたが、こういった地味ながらも、思索的な持ち味の曲もうまく表現できていました。

#### 4. まとめ

旧来の C-34 と新規導入の C-47 のそれぞれの持ち味が発揮されていました。

以上